

## 新たなステージへ踏み出す ステップの1年に

2月26日(木)、3月定例会市議会(会期は3月23日(月)まで)が開かれ、宮島市長が令和8年度の施政方針を説明しました。「選ばれまち SASEBO を創るシティブランディング・プロジェクト」の分野ごとにおける取り組みなどの概要を抜粋、要約してお知らせします。詳しくは市 HP をご覧ください。

令和5年4月の市長選挙において、市民の皆さまから温かいご信託を賜り、はや3年が経過しようとしております。市長就任以来「大好きなふるさと佐世保を元気にしたい」「ふるさと佐世保をしっかりと未来の世代へ引き継いでいきたい」という強い思いのもと、市民目線と対話重視を基調とし、市政のかじ取りに当たってきました。

令和8年度は、市長任期4年の最終年度となり、私の1期目の総仕上げの年となりますので、より一層の強い気持ちと勇気、覚悟を持って、全力で市政運営に取り組んでいきます。

特に、「子育て」「産業」「地域資源」「文化」の4つの柱を中心とするシティブランディング・プロジェクトにつきましては、その効果的な推進を図るとともに、本市のまちづくりの基本とな

る第7次佐世保市総合計画(後期基本計画)につきましても「つながる想い ともに創る SASEBO」の理念のもと、着実に進捗してまいります。

また、これらの取り組みを推進するにあたっては、昨年8月に発足した「させば未来共創会議」をはじめとする官民連携の場を大切に、市民の皆さまと連携を深めながら、本市を取り巻く状況や直面する課題に迅速に対応することで、まち全体で共創のまちづくりを積極的に進めてまいります。

これまで、まちの将来を見据えながら、さまざまな取り組みの種をまき、その芽吹きを図ってきました。令和8年度は、その芽が大きく伸びるように、また伸びた芽を市民の皆さまにしっかりと感じていただけるような取り組みを進めていく、いわば次のステージに

「ステップ」する重要な1年であると考えています。

我が国を取り巻く情勢について、景気は緩やかに回復しているとされる一方で、人口減少に歯止めがかからず、高齢化はさらに進行し、生産年齢人口の縮小や市場の縮小、社会保障制度の維持に影響を及ぼしています。

本市においては、経済面で、昨年以前期に比べて、景況感、売上動向、採算動向の全てにおいて改善しているものの、依然として人手不足やコスト増加といった課題が継続している状況です。加えて、転出者数が転入者数を上回る「転出超過」も続いており、人口減少対策が引き続き本市の最重要課題であると認識しております。

### シティブランディング・プロジェクト

#### 子育て

子育て世代などの経済的な不安の軽減を図るとともに、家族・職場・地域など、社会全体で支えていくという考えに基づき「子どもまんなか社会」の実現を目指し、取り組みを充実させてきました。特定不妊治療のため市外・県外の医療機関へ通院が必要な方々へ交通費の支援を行う他、高校生等世代までの医療費助成の現物給付化をはじめとするさまざまな取り組みについて、引き続き実施してまいります。

また、令和6年度から取り組んでいる中学校給食費の無償化および学校給食費相当額助成事業を、中学校全学年へ拡大し、国の交付金を活用して、小学校給食費の無償化および学校給食費相当額助成事業を実施してまいります。

さらに、国が示している「こどもの居場所づくりに関する指針」では、できるだけ多様な居場所を持てるよう支援していくこと、居場所づくりの実践者や取り組みをしている人々を支援することが必要とされています。本市においても地域での子育て支援の充実を図るため、子どもの居場所づくりに関する先進事例について調査・研究等を行ってまいります。

#### 産業

令和7年度末に策定した「佐世保市基地経済ビジョン」に基づき、市内企業の技術力向上や継承、人材不足の解決に向けて取り組むとともに、防衛関連産業における生産基盤の強化と供給体制の充実を図り、拡大する防衛需要を市内企業が確実に取り込める体制整備を後押ししてまいります。

また、長崎国際大学における理工系学部設置を契機として、地域の課題である情報系人材の育成、確保に向けた産学官連携機能の構築を進めてまいります。この取り組みは、地域の産業振興

の観点からも本市の未来を支える大きな柱になると確信しており、大学の他、佐世保工業高等専門学校などの高等教育機関および地元高校や地場企業、県、連携市町と共に、力強く推進してまいります。

さらに、物産振興では、佐世保自慢の特産品をより多くの方々に認知いただき、売り上げを伸ばすための取り組みを強化してまいります。地域の歴史や作り手の思いといった「ストーリー」を乗せた効果的なPRを都市圏やWebで展開し、佐世保の魅力を全国の皆さまに届けてまいります。

#### 地域資源

佐世保ならではの自然環境、歴史、文化、人々の営みに根差した食のストーリーを切り口として、佐世保の食文化創出や再発見する取り組みの「九十九島テロワール」を推進してまいります。

日本遺産「鎮守府」と「窯業圏」が、認定10周年の節目を迎えるとともに、11月には「鎮守府」の新たなガイダンス施設である「させば立神近代化歴史公園」の供用開始を予定しています。同歴史公園を核として市内に点在する近代化遺産をつなぐ「フィールドミュージアム」を実現し、「鎮守府」のさらなる魅力向上と誘客促進を図ります。「肥前窯業圏」については、周遊スタンプラリーなどの周知活動に組み込み、陶磁器イベントでのPRを通じて「三川内焼」の振興を図ってまいります。

また、俵ヶ浦半島全体の自然観光公園化に向けて、パートナー事業者と共に、「俵ヶ浦半島マスタープラン」の策定に着手します。

さらに、高島における宿泊施設の設置支援など、滞在型観光の充実に努める他、新みなとイベント広場等の観光ゲートエリアの活用など、三浦地区一帯が観光拠点および港湾施設としての機能を有するエリアづくりを推進してまいります。

#### 文化

「日本一、若者の夢を後押しするまち」の実現へ向け、「若者活躍支援組織(仮称)」を設立いたします。若者が地域社会や産業界と深く交わるための「ハブ(つなぎ役)」となり、挑戦を支える人・場・仕組みを構築します。

「ながさきピース文化祭 2025」のレガシーとして、文化団体とのつながりを継承したイベントを展開する他、「ツール・ド・九州 佐世保クリテリウム」を令和7年度に引き続き開催します。

また、県内唯一のプロサッカーチームで、8年ぶりにJ1復帰を果たしたV・ファーレン長崎と連携し、本市の知名度を全国展開するためのシティプロモーションを実施します。

さらに、佐世保公園内には、スケートボードエリアなどを中心とした「アーバンスポーツパーク(仮称)」を令和9年4月の供用開始に向けて整備します。

加えて、令和8年度から始まる県立宇久高校の離島留学制度では、受入環境の整備や経済的支援を実施します。

#### 結び

これからも市政運営を担う責任者として「市民がもっと笑顔になるまち」、「暮らして良かったと思えるまち」になるよう、歩みを止めることなくまい進します。今後も将来を見据えたまちづくりを着実に推進しつつ、令和8年度が、本市のさらなる成長と飛躍に向けた新たなステージへ踏み出す「ステップ」の年度となるように、全力で取り組んでまいります。



施政方針



当初予算



シティブランディング・プロジェクト



弓張岳展望台から望む佐世保市街地



九十九島観光公園